キャリアのある方の就労支援
－年の差のある対象者との関係構築－

○菅野 未沙樹（NPO法人コミュニネット楽創 就労移行支援事業所コンポステラ）
本多 俊紀　（NPO法人コミュニネット楽創）

1　はじめに

精神障がい者には、社会で職業生活を営みキャリアを築いてきた中で発症し、それまでのキャリアを中断せざるを得ず、迷いながら障がい者手帳の取得や再就職を目指す方もいる。キャリアを積み上げ活躍してきた方にとってそこからの職業の再選択は、中高年者一般の再就職の難しさとも重なって、様々な葛藤があると思われる。

「ワーカーとクライエントの関係性が根本であり、本質である」とラップ[1]らが述べるように、支援者との関係性は重要であるが、年齢を重ねるほど、より若く職業キャリアの少ない支援者と関わる場合もあり、担当との信頼関係を築くことが難しく感じることもある。

今回、キャリアを築く中で病気を発症し、転職活動の経験が少ないAさんへの再就職を、20歳ほど若い担当支援者（以下「担当」という。）が支援した事例について考察し、報告する。

なお、本報告はNPO法人コミュニネット楽創の倫理審査（2022-03-2）を受け、承認を受けている。

2　事業所と事例の紹介

(1) 就労移行支援事業所コンポステラ

2010年に開設し、IPS（Individual Placement and Support）モデルに基づいた支援を行っている。毎年20-40件ほどの就職がある。障がいの軽重にかかわらず、一人一人に合わせた個別支援を展開し、職業前訓練に重きを置かず、迅速な一般就労を目指した支援と、就労後の面談や訪問などの充実した支援を行うという特徴を持つ。

(2) Aさん：双極性障がい　50代男性　既婚（子は独立）

20年以上ホテルや飲食店の接客業としてキャリアを構築していたが、精神疾患を発症し、離職。失業保険が切れる数週間前にB病院の心理士より就労移行支援事業所コンポステラ（以下「事業所」という。）を紹介された。

今回の就職では、前職とは違う事務職への転職を希望され、パソコン教室に通いながら、事業所を利用した。

3　支援の経過

(1) 利用開始当初のAさんと担当の関係変化

利用開始当初、事業所の年配スタッフより「歳の数だけ頑張って受ける必要があるよ」と聞き、Aさんは短期間に７-８社応募した。しかし、不採用が続いたことから体調を崩して事業所を２週間休み、再来所するも10分程で帰宅するという出来事があった。当時、担当は、年の差のある年長者への支援経験がなく、どう励ましたらよいかわからず積極的に声かけができなかった。

そこで、Aさんと担当に、事業所長を交えた面談を行った。その際、Aさんより、障がいを開示した就職活動は初めてで、以前の転職も知人の仲介だったため経験が乏しいこと、改めて志望動機の書き方、病気や欲しい配慮の伝え方について知りたいことが語られた。この面談の結果、気持ちを立て直して週３日から通所を再開することとなった。

担当は関係の再構築を図り、１日１回はAさんと接点を持ち、生活のことや就活のことについて話す時間をつくるよう心がけた。悩みながらもたわいないことを話したりや、担当のプライベートな話を自己開示したりする中でAさんの雰囲気も変化していき、話が続くようになっていった。

(2) 就職活動

就活開始当初、Aさんは、自身の希望する配慮事項を書いたプロフィールシートを作成し、ハローワークの障害者専用求人の事務職に的を絞って就職活動をした。その中で、病気や配慮事項の伝え方をハローワークの相談員に助言してもらうなど、応募の仕方にも変化していった。しかし障害者専用求人だけでは希望に合うものが少なく、一般求人にも視野を広げ、障がいを開示して応募をするようになった。一般求人への応募が増えたことで、担当からもより多くの求人情報を提供し、希望する条件調整のため、職場開拓にも一緒に取り組んだ。また、Aさんは、書類添削について担当に声をかけてくれるようになり、一緒に経歴や仕事への思いを伝えられる応募書類を作成するようになった。

時々、気持ちが折れそうになることもあったが「歳の数」を目指して応募を続け、その数は多い時で１日３社にも及び、利用５ヶ月目に目標であった歳の数ほど応募したところで、障害者専用求人の事務職に就職が決まった。

Aさんは子どもの結婚で相手親族に会う前に就職することが出来たと話し、ほっとした表情を見せた。

(3) 就職後の支援

Aさんは就職に際し、以前の不調の経験から、慎重に勤務調整し短時間勤務から開始し１ヶ月かけてフルタイムへ移行するという方法を選択した。この間は、週１回対面で会い、Aさんから上司や同僚への声かけ、職場の人との関係を築いていくこと、仕事を増やしていく工夫などを一緒

に整理した。

２ヶ月目からはフルタイム勤務となったため、通院日に合わせた月２回の来所による面談に切り替えた。Aさんからは、職場の同僚とも関係を築き、徐々に話せるようになっていく様子が語られ、相談を苦手としていたAさんと職場の人間関係が、変化していく様子が伺えた。またAさんからも、家族との関係などプライベートを語られる機会が増えていった。

また同じころ、Aさんの希望により職場訪問を行い、上司に、Aさんの仕事の状況や、継続して事業所で顔を合わせて面談のサポートをしていることを伝えた。

職場内でコミュニケーションが取りにくくなった時期には、調子を崩すことも危惧されたが、担当は本人と職場の力を信じ、Aさんから上司に相談するなどといった、自身が取り組むことを応援するにとどめ、職場への介入は控えた。

そうしているうちに、来所時には事業所の他の職員や利用者との話に加わり、質問にも応える姿が見られるようになった。３ヶ月経過したころ、Aさんから「自分の経験を他の利用者に伝えたい」という提案を受け、初めて触るパワーポイントを駆使し、経験を語ってくれた。その姿から後輩への貢献とともに失われつつあった人間関係をとりもどす姿が垣間見られた。

Aさんと就職活動を振り返った際に、担当から、20年というキャリアの中で事務職を選択することは何かを諦めたのではないかと思い、視野を広げ、様々な求人情報を提供していたと伝えたところ、Aさんは、体力や趣味を充実できる就業時間や勤務を固定する働き方をしたく事務職を選んできたこと、今が充実していることを語っていた。

４　考察

(1) 担当との関係の変化

担当は、Aさんとの年齢差により「キャリアも経験もある人」というAさん像を作り上げてしまった。そしてAさんのキャリアを尊重し、尊敬していたがゆえに声かけがうまく行かず、就職活動のアドバイスをしきれなかった。

しかし、関係改善に至るきっかけとなった担当の「自己開示」は、双方の信頼を醸成し「Aさん像」という思いこみを取り去って、年の差を超えた等身大のAさんと担当の関係へ変化するきっかけになったのではないかと考える。この信頼関係の変化は、事業所の他の職員からの協力もあったことから、事業所の他の職員とAさんのつながりの強化にも発展していった。それが担当への大きな援護になっていたとも思われる。

ラップら[1)]は「伴侶的関係が示すのは、クライエントが課題に取り組んでいく際に、ワーカーがその人と協働して課題解決のために行動することである」と述べている。本報告では、当初すれ違っていたAさんと担当が、日々の小さな声掛けから、お互いが相手の頑張る姿をみて励ましあう関係になり、目標を共有する伴侶的関係に少しずつ変化していったと考えられ、さらに周囲の協力も得られるように変化したのではないかと考えられた。

(2) Aさん自身の変化

Aさんは、担当との関係の変化とともに就職活動も変化していった。これは、何を相談していいかもわからず一人で不安を抱え込んでいたAさんが、担当はその不安を開示することを許せる関係であると認識し、そのことが周りの助言や励ましに耳を傾けられる余裕となり、担当との強固な協力関係による就職活動ができるようになったのではないかと思われる。

また、これらの変化はAさんのコミュニケーションや事業所内の人間関係の広がりとして、従来より持っていた「他者の役に立ちたい」、「役に立てるかも」という思いを呼び覚ましたのではないかと思われる。ベッカーら[2)]は「援助システムは、隔離されあるいは施設化された環境から、結合されノーマライズされた地域環境に焦点を移すことによって、リカバリーを促進できるのである」と述べている。Aさんの実際の就職活動と就職は、まさに、支援者のみならず当事者にとっても、結合された環境に焦点を移すことになり、より希望に向けたリカバリーをもたらしたのではないかと考える。

５　まとめ

キャリアを築いてきた中で、異業種へのキャリアチェンジは、年齢を重ねるごとに難しさを感じさせる。そのような中では支援者も当事者も、思い込みが先行し、ストレングスに目が向きにくくなったりするかもしれない。

しかし、実際にはその一人一人に、生かされるストレングスが存在する。それを探すのは一人では難しいかもしれないが、双方が協働し、またチームの協力を得ることで、可能性を模索することができるのではないか。

Aさんのようにキャリアを築く中で障がいを得る方は少なくない。そのような方に支援者ができることは、信頼関係を築き、励まし、希望を持つことを応援し続けることではないかと思う。

【参考文献】

1) C.A ラップら「ストレングスモデル第３版」金剛出版，(2014) p.67-127

2) D.R ベッカーら「ワーキングライフ」金剛出版,(2004) p.35-38

【連絡先】

菅野　未沙樹

就労移行支援事業所コンポステラ

e-mail：compostela@ia8.itkeeper.ne.jp